

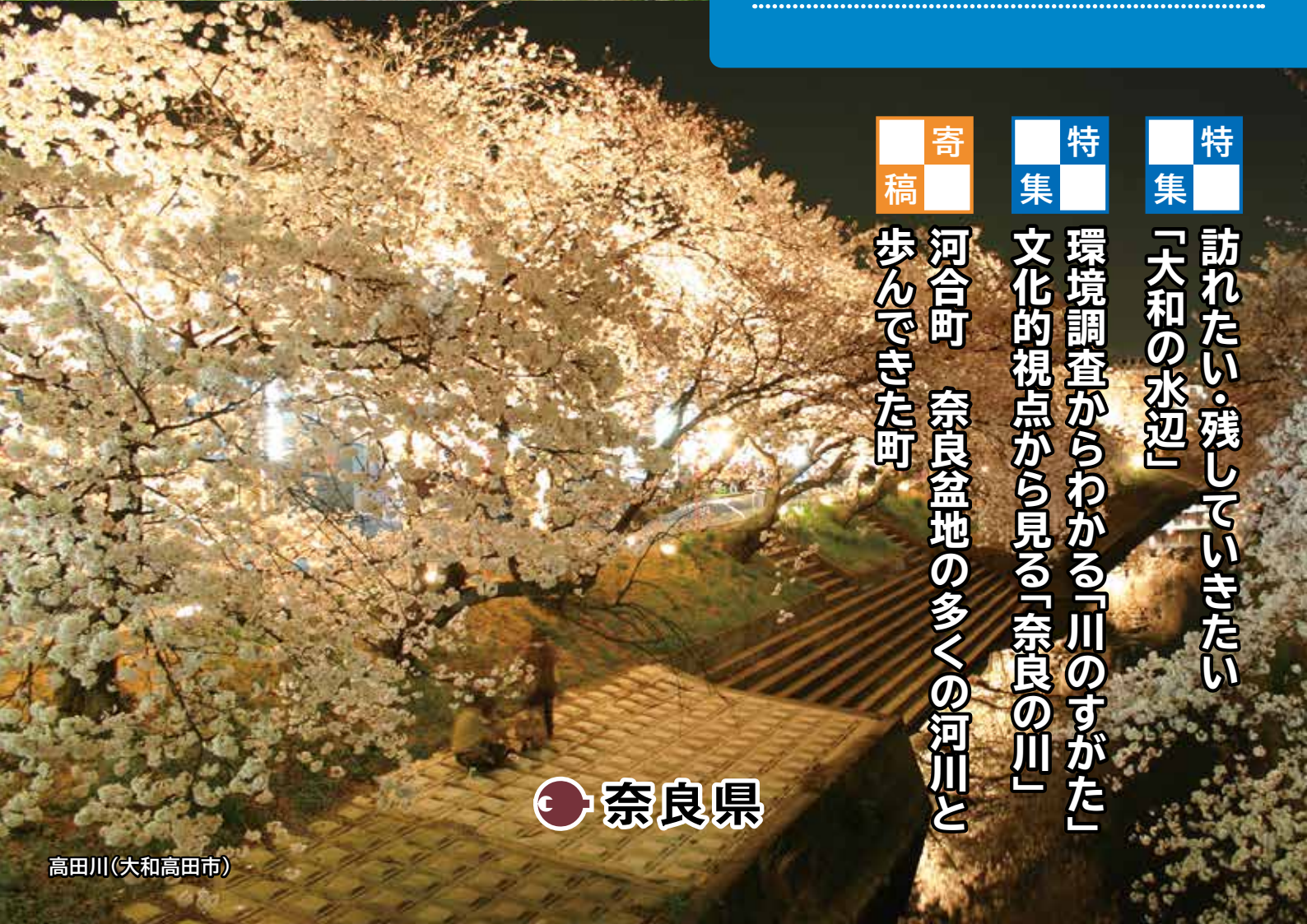


柳田川(御所市)

2024年2月発行

第14号

大和川 ジャーナル



寄稿

河合町 奈良盆地の多くの河川と
歩んできた町

特集

環境調査からわかる「川のすがた」
文化的視点から見る「奈良の川」

特集

訪れたい・残していきたい
「大和の水辺」

奈良県

高田川(大和高田市)

訪れたい・残していきたい「大和の水辺」

竜田川

生駒山から平群町、斑鳩町を流れ大和川にそそぐ川で、百人一首で詠まれた歴史的価値のある景観を有しています。春の桜を始め、鯉のぼり、紅葉など季節ごとに違った景色を楽しみながら河川沿いを散歩できます。



竜田川と紅葉 (斑鳩町提供)



竜田川と桜 (生駒市提供)



竜田川と鯉のぼり (平群町提供)

唐古・鍵遺跡

田原本町の唐古・鍵遺跡は弥生時代研究にとって非常に重要な遺跡であることから、平成11年に国の史跡に指定されました。そして多くの人に歴史の面白さやこの地域の魅力を伝えるために、遺跡の一部が史跡公園として整備されました。

公園内の中心にある唐古池の周囲約500mに桜が植えられており、春になると綺麗な桜並木が楽しめます。毎年3月下旬から開催される「さくらまつり」では、唐古池がライトアップされ、夜桜を堪能するのにおすすめです。



唐古・鍵遺跡 (田原本町提供)

治水ため池

大和川流域では、洪水被害を抑制するため、農業者の協力のもと、県と市町村が協力して「ため池」の利水容量の一部を治水容量に変換する「ため池治水」を進めています。

これらの中には、公園等親水空間として利用できるように整備したものもあり、桜や紅葉など季節の景色を楽しめる場所から、水上遊具によるアクティビティの充実したレクリエーションスポットもあります。



今池親水公園 (香芝市提供)



うなさほりいけ 鵜堀池 (大和郡山市提供)

佐保川

奈良市、大和郡山市を流れる河川。奈良市内を流れる佐保川中流の堤には両側に桜並木があり、春になると満開の桜を楽しめます。



佐保川 (奈良市提供 写真: のび治さん)

秋篠川

奈良市から大和郡山市にかけて流れる河川。桜並木がきれいな堤防は、奈良県が自転車道として整備しており、自転車や徒歩で薬師寺や唐招提寺を巡ることが出来ます。



秋篠川堤防を利用した京奈和自転車道 (奈良市)

藤原宮跡

橿原市の藤原宮跡は、694年に持統天皇が造営した日本最初の都である藤原京の中心にあった宮殿跡です。藤原宮跡では、春から秋にかけて季節の花を植栽しています。

中でも、藤原宮跡の夏の風物詩となっているハナハスは、3千㎡の蓮池に11種類が咲き誇ります。見頃の早朝には、大和三山を背景に、朝露に濡れる蓮を写真に収められる方も来られています。



藤原京跡 (橿原市提供)



荒池 (奈良市)



高山ため池 (生駒市)



ひろたかばらく
稗田環濠集落 (大和郡山市提供)



高田千本桜

奈良県景観資産

― 市民に親しまれる高田千本桜と高田川 ―

この写真は高田川畔に咲く桜を写したものです。高田川は、河合町にて曾我川に合流する、大和川の一級河川です。

高田川畔の千本桜は、市政施行の1948年(昭和23年)に市民ボランティアにより植樹されたもので、「高田千本桜」として市民に親しまれています。3月下旬から4月上旬にかけて、大中公園を中心に高田川の兩岸南北2.5kmにわたり見事な「桜のトンネル」が続きます。この場所は遊歩道になっているため、ゆっくりと散歩をしながら桜を満喫できます。

その景観の美しさから高田千本桜は奈良県景観資産に登録されており、奈良県を代表する桜の名所となっています。



高田千本桜情報

本数:1,200本
距離:2.5km
露店出店:あり(観桜期)
○アクセス
近鉄大和高田駅・JR高田駅から、
徒歩約13分
近鉄高田市駅から、徒歩約10分



高田千本桜

夜のライトアップ

今号の表紙は高田千本桜の夜のライトアップの写真。夕闇とともにほんのりかともり、ライトアップされた夜桜を見物する人の波は絶えることがなく、桜の下で、楽しく、にぎやかに宴が開かれます。

今号の表紙について

柳田川と御所まち

〜憩いと交流の水辺空間〜



柳田川の水辺には遊歩道があり、約1kmの桜トンネルは圧巻です。



御所市の観光情報は
Facebook
「御所ガール」へ



御所市観光アプリも
あわせてご利用
ください。



「桜橋」には珍しい桜の欄干があり、公園内は桜の森が広がっています。



御所市(JR・近鉄御所駅から徒歩約3分)

御所市の市街地を流れる「柳田川」は大和葛城山の東麓を源とする大和川水系の一級河川です。この見所は何といつても「桜」。

葛城川との合流地点まで長さ約1kmに渡る桜並木は奈良県内有数の桜の名所として知られ、通年においても川沿いを散策する人が多く、その周辺の地域や川の北側に位置する「御所まち」の人々にとっては憩いの場・交流の場となっています。

水際には遊歩道があり、桜並木の中を歩くことができます。また、手を伸ばせば葛城山を源流とする透き通ったきれいな水に触れることもできます。観桜の時期にも、ぜひ御所に遊びに来てください。



中井家住宅
(国登録有形文化財)



赤塚家住宅
(奈良県指定有形文化財)

歴史的な建物が数多く残る 御所まち

御所まちは江戸時代初期に形成された陣屋町で、その後も奈良県中南部の中心地として繁栄を誇ってきました。

江戸時代の検地絵図が今でも使えるほど町の形はよく残っており、家々の間を流れる水路(背割り)下水までほぼ当時の姿をとめています。

伝統的な建物がたくさん残る町の風情をぜひ感じてみてください。



今号の表紙について

鴨都波神社の春季大祭

今号の表紙は御所まちの氏神様ともいわれる鴨都波神社の春季大祭(4月第1日曜日)の1コマ。祭事の前に桜満開の柳田川沿いを練り歩く様は荘厳です。ぜひご覧ください。

環境調査からわかる 「川のすがた」

生物分野の専門家、奈良県河川整備委員会のメンバーの一人、久保田さん。
専門的な視点で、現在の川の環境について解説していただきました。



久保田 有さん

1947年生まれ。愛媛県出身。天理市在住。学生時代から生物や地理に興味を持ち、身近な野山や川で自然保護のあり方を模索。高校などで理科教育を担当。(財)日本自然保護協会 自然観察指導員などを経て、現在は、なら橋プロジェクト推進協議会メンバー。主に尼ヶ辻や山の辺で大和橋の栽培を担当。

「川の生き物から水の汚れがわかる」

皆さんは、カゲロウやトンボのヤゴは川の中で幼虫時代を過ごし、やがて成虫になると空を飛び始めるのを知っていますか。また、川の中には、メダカやドジョウなどの魚類やカワニナ、タニシなどの貝類もすんでいます。

「今から約60年前、奈良女子大学の津田松苗教授によって、ヨーロッパで行われていた『川の生き物によって環境を調べる方法』が日本に紹介され、奈良県でも川にすむ生き物による環境調査の方法の研究が始まりました。その後、この調査の簡易法が開発され、今では全国の川で児童生徒や市民によって川の調査が行われています」。

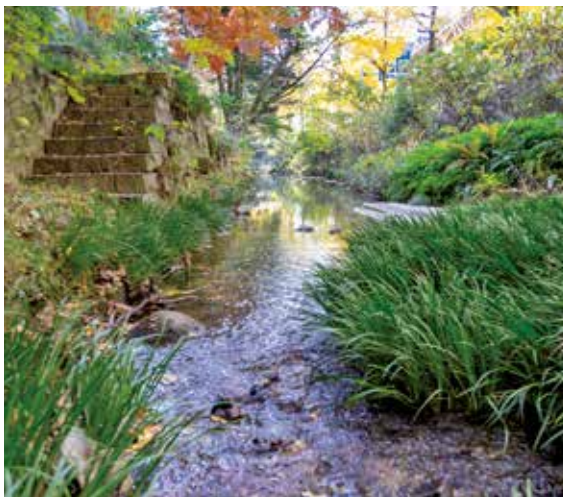
川の汚れは、そこにすむ生き物によって、①きれいな水、②やきれいな水、③きたない水、④とてもきたない水の4つに分けられます。たとえば、きれいな水には、カゲロウ、カワゲラ、トビケラなどがすみ、やきれいな水には、ゲンジボタル、カワニナなどの環境指標生物がすんでいます。

これらの指標生物によって川の汚れを調べると、大和川も近年は徐々にきれいになっていくことが分かってきました。

「子どもが川で遊べるような環境を取り戻したい！」

久保田さんは、高校などで理科教育を担当し、多くの子どもたちに自然を守る大切さや生き物の魅力を伝えてきました。「奈良県でも『川の学校』や『リバーウォッチング』など、川に入って生き物を探る調査が行われています。生活排水や農業の影響によって汚れた川も、最近は下水道の普及によって、きれいになりつつあります。今でも吉野川や飛鳥川などのきれいな川にはたくさん生き物がすんでいます」。一方で、約10年前から、アキアカネという赤とんぼの飛ぶ姿が少なくなってきました。「原因ははっきりしませんが、秋を代表する赤とんぼが見られなくなるのはさびしいですね。私たちにできるのは、身近な自然の異変に気づいたら、その情報を共有し、発信すること。それは自然を守るために必要な心構えだと思います」。

久保田さんの願いは、もう一度子どもたちが川で遊べる環境を取り戻すこと。「私たちが子どもの頃は、川で遊ぶことが当たり前でした。その楽しさを今の子どもたちにも味わってほしい」。その目標に向けて、専門家をはじめとする多くの人々の協力と理解のもと、日々、川の環境保全や河川改修などの仕事が行われています。



端午の節句で厄払いとして菖蒲湯に使われた石菖が水辺で育つ「布留川」(天理市)



自然豊かな「飛鳥川上流」(明日香村提供)



1. 調査のために生き物を採集
2. 布留川で採集された「ガガンボの幼虫」
3. 布留川で行われた「リバーウォッチング」

「奈良の川」 文化的視点から見る

文筆業やまち案内、俳人としての活動など、幅広い分野で奈良の魅力を発信する倉橋さん。文化的視点から「奈良の川」の魅力を語っていただきました。



奈良市内を南北に流れる佐保川



NPO 法人文化創造アルカ
理事長

倉橋 みどりさん

1966年生まれ。山口県美祢市出身。結婚を機に大阪から奈良に移り、99年より季刊誌『あかい奈良』（休刊中）に参画。文化講座や体験型ワークショップ・まちあるきイベントなどを実施しながら、文筆業を行う。主な著書は『奈良の朝歩き、宵遊び』。俳人としても活動し、俳句結社「寧楽」主宰。俳人協会理事。2020年7月より、奈良市観光大使。

「俳句の世界から見る「川の魅力」

奈良県を拠点に日本の文化の継承と地域活性化、地域の魅力の再発見に尽力するNPO法人文化創造アルカ。その理事長を務める倉橋みどりさんは、俳人としても活躍しています。「俳句の世界から川の魅力を探ると、春夏秋冬それぞれの季節と組み合わせると『季語』として成り立つということが挙げられます。『春の川』はさらさら流れてのどかな感じ、『夏』の川は涼をとったり、ホタルを見た思い出があったり、四季折々の川は、読み手の誰もがそのイメージを共有できます。それは、私たち日本人が四季と結びつけて川と親しんできたことの証明だと思えます。川は日本人の暮らしに切っても切れない存在であるということは、俳人として感じる「ことです」と倉橋さんは語ります。

佐保川の千鳥ぞ光る石拾ふ

この一句は、「万葉集で「佐保川と千鳥」がセットで詠まれていたことをひまえて、倉橋さんが詠んだもの。「川沿いの小石が千鳥のように見えて、佐保川が現代と万葉の時代をつなげてくれている」という思いを込めて詠みました」。俳人としても、倉橋さんは奈良県の川の魅力を発信しています。

「歴史と文化とロマンを秘めた奈良県の川

川上村、天川村、十津川村など、奈良県には多くの「川」が入った地名があります。「どの地域も新興市町村ではなく、古くからの歴史・文化が息づく場所です。古代史のロマンを感じられるスポットとして注目される明日香村にも、大事な要素として飛鳥川がある。まち案内の仕事で、川を意識しながら、そのまちの歴史・文化を紐解くと、目には見えない奈良の奥深さが見えてきます。ナビゲーターとして、その隠れた魅力を多くの方に伝えられることにやりがいを感じています」。倉橋さんの幅広い活動にも「奈良県の川」は重要な要素となっています。

大和川については「奈良県と大阪府の両府県をまたがり、まちとまちをつなぐ存在でもあります。古くは物資や人を輸送する重要な交通路でもありました。さまざまな視点で川を見直し、実際に川が流れるまちを訪れて、川沿いを深呼吸しながら歩き、そのまちの本当の魅力を知ってほしい」と倉橋さん。奈良県の観光素材の一つとしても「川」はますます注目を集めそうです。



1. 佐保川にかかる風情ある「若草橋」
2. 美しい弧を描く「石橋」など各所に見どころあり！
3. 歴史を感じる川沿いのまちなみ



河合町 奈良盆地の多くの河川と歩んできた町

奈良盆地の多くの河川が大和川に流れ込む地点にあるのが河合町。古代から稲作と川と共に暮らしてきた大和の流通の要衝が、この町でした。難波の津から大和川を上つてくる舟運の拠点となったのが「広瀬」の地。狭く岩が多い亀の瀬を越え、川が浅く広くなる場所が「広瀬」であり、舟が着いて荷物の積み降ろしをしやすい場所が「川合浜」となりました。遠い昔の歴史のようですが、電車や車が物流の主流となる以前の昭和初期まで、この浜は活用されていました。また、この川合浜に隣接する「廣瀬大社」は、水の神として古くからこの地に鎮座していると伝えられています。この廣瀬大社では『日本書紀』に天武・持統天皇以降国家の祭祀が営まれたと記されていることから、舟運や農作物に大きく影響する河川の氾濫を抑え、五穀豊穣をもたらす雨を司る水の神と人々の生活が密接に関係したことが伺えます。



廣瀬大社本殿

廣瀬大社・河合浜（河合町川合）

大和盆地を流れる全ての河川が一点に合流する地に鎮座し、朝廷をはじめ万民を守護する御膳神として古来より国家の重要な祭祀が執り行われてきました。山々からこの地に集まる川の水を統治されることで水神としての信仰があります。また、日本書紀に記載されているように、天武天皇は風を司る龍田風神と二社一体のお社として、龍田と廣瀬の両社を併せ祀ることにより風水を調和し、国家安泰・五穀豊穣を祈願されました。そのことから現在でも二社参り



川合浜（大和川）

の信仰が残っています。緩やかに下る長い参道を歩いて行くと、神域の空気や鳥の声、木々が風に揺れる音を感じ、神前にお進みになれば、大和の古社といわれる廣瀬の大神の穏やかなご神気に触れることができます。

現在の和川である廣瀬川は、万葉集にも詠まれています。

「原文」廣瀬河 袖衝許 浅乎也 心深
目手 吾念有良武

「訓読」廣瀬川 袖つくばかり 浅きを
や、心深めて わが思へるらむ

「意味」あの人の心は廣瀬川のように底
が浅いの、どうして私の心の底深く

あの人のことを思っているのだろう
（『万葉集』巻七 一三八一 作者不明）

軽薄な思い人を、心憎からず深く慕っ
ている恋の歌です。

時代を下る鎌倉時代には、鎌倉幕府
三代将軍源実朝による、実朝ならではの
感性で当世風に詠まれた本歌取りの
歌が『金槐和歌集』に収められています。
「廣瀬川 袖つくばかり 浅けれど 我
は深めて おもひ初めてき」

時代を経ても親しまれたこの歌から
は、現代にも通じる普遍的な感性があ
るように思います。川が合う地で物資
が出合い、人の生活と共に歴史が紡が
れてきたことが伺えます。

水辺の生き物図鑑を公開しました。

大和川ジャーナル第12号にてご好評を頂きました奈良県水辺の生き物図鑑をボリュームアップして奈良県河川整備課ホームページで公開しています。製本すると持ち歩きやすい冊子になりますので、是非図鑑を片手に水辺の生き物を探してみてください。



大和川ジャーナルは第14号をもって、発行終了の運びとなりました。
これまでのご愛顧ありがとうございました。